

横浜市・フランクフルト市 パートナー都市連携
横浜市立桜丘高等学校 ドイツ国際交流プログラム
姉妹校派遣留学プログラム(2020年2月15日～2020年2月23日)
参加生徒の感想と記録

First day ～ホストファミリーと初対面～

13時間のフライトはハードだったが、ホストファミリーの方々が温かく迎えてくれた。集合写真のときまでは、会えた嬉しさと、ドイツの生活にワクワクして興奮気味。桜丘のみんなと別れてからは、未知の場所へ1人で行くという不安が徐々に募る。移動するときも、緊張したり話しかける勇気が出ず、上手く会話が続かない。興奮状態から不安モードになり初日を終える。



2nd day ～ホストファミリーと過ごした休日～

時差ボケが多少ある中、1日がスタート。
それぞれが各ホストファミリーとお城へ行ったり、買い物へ行ったり。
今年は多くの人が、フランクフルト周辺の様々なお城につれていってもらった。
やはりコミュニケーションが上手くとれず、沈黙もしばしば...
どういう風に話せばいいか分からなかった。
自分の英語力や積極性の無さに直面した。もどかしかったし、悔しかった。
でも目的地に着くと、そこは日本と別世界。ザ・ヨーロッパ！という感じで、まるでディズニーランドにいるようだった。
緊張感が抜けないままドイツの街を満喫し、2日目を終える。



3rd day ~登校初日~

1 日半ぶりに桜丘の皆と合流。日本語を久々に聞き、話した。皆の顔を見てほっと一安心。授業は少人数制で、生徒の話し合いによって進んだ。先生は机に腰掛けたりして、日本ではあまりみないと~っても”自由”なスタイルだった。日本と違うことが多く、何を見ても聞いても、驚きっぱなしだった。放課後は留学生グループでスケート♪言葉が上手く通じなくても、みんなで同じ事をして盛り上がることで、心が通じ合えた気がした。ホストシスター・ブラザー以外の生徒とも交流。嬉しい時はハイタッチやハグ、楽しい時は笑いあったりして、仲が深まった。

私の中を占めていた”孤独感”から抜け、少し気持ちの余裕がでてきた3日目。心から楽しいと思えた日。



4th day ~登校 2 日目~

環境というテーマでワークショップをした。1 つの方向から考えるのではなく、グループ間で意見を共有し、多方向から調べていたので、知識とは私たちの思いが深まった。今までは、自分たちが環境問題の対策をしてもしなくても、あまり変わらないと思っていたけど、今回のように、みんなで話し合って意見を深めれば、世界を変えられるのではないかなと感じた。

放課後はそれぞれが好きなところへ行き楽しむ。例えばショッピング。そこでしたボードゲームは、英語でのルール説明！分からないところはジェスチャーで聞いたり、教えてもらったり。相手に伝わったときは嬉しかったし、少し自信がついた。もっと積極的にコミュニケーションをとりたいと思えた。本屋さんで、ドイツ語の絵本を英訳してくれたとき、ホストシスターの英語力の高さに感動。私たちも、実際に使える英語を増やしたいと思った。



☆ ワークショップの事前準備 ☆

異文化交流ワークショップでは、日独混合の各グループに分かれ、大きいテーマのもと各トピックについてお互いに意見を出し合い、一緒に話し合い、新しい視点や価値観を学び合います。今回は「環境」をテーマに、ごみ問題、食糧問題、エネルギー問題、地球温暖化、水質汚染、森林伐採の6つのグループでワークショップをするために準備をしました。まず、9 月頃に皆でテーマを考えました。それから各グループが担当するトピックをあらゆる方向から時間をかけて調べました。その後、実際にワークショップ形式で考えを深める活動を行いました。3つのキーワードを決めそこから話を掘り下げられるように工夫をし、何度も仲間や先生とのやりとりを繰り返していきました。また、英語で練習も行いました。英語でのワークショップは日本語の何倍も難しかったですが、何回も練習し、自信がついていき、完璧でなくていいから自分たちの伝えたいことを絶対に伝えようと努力しました。本当に多くの時間をかけて準備してきましたが、基礎知識の差やどれだけ地球問題を身近に考えていないのかを大きく感じ、実際のワークショップでは悔しい思いをした日本の生徒も多かったです。ドイツの生徒はもっと早から深刻さに気づき、デモなどに参加していたと知ったからです。しかし、このワークショップの活動を通して多方面から地球環境について考え、地球の現状、未来、対策、今すべきことを具体的に考え、地球のために行動しようという想いが湧いてきました。最初は地球環境について興味がなかった私たちの意識が変わり、生活の中での行動も変わりました。お互いに環境問題について本気で考え、改善したいという想いが共通してあったため、拙い英語でも話が盛り上がり、この異文化ワークショップが成り立ち、そして、私たちの胸に残る活動になったと私は思います。



5th day ~登校3日目(最終日)~

リード校に登校するのはこれで最後。お昼ご飯を皆で作った後はバスケットボールをしたり、街中へ買い物したり。ホストシスター・ブラザーと一緒にいる時間が長くなるにつれ仲良しに。例えば、最初はトイレを我慢していたが、行きたいと伝えられるようになった！スポーツで言葉の壁を越えて楽しみ、ジェスチャーや表情、スマホ、紙、ペン、絵など使えるもの全て使ってホストファミリーでない子達とも顔を合わせる機会が増えた。

最初とは比べ物にならないくらい顔がイキイキとしている人も出てきた5日目。



ドイツ語教室

私たちは、ドイツ語の先生の方山懸さんとドイツ語圏に留学していた3年生の先輩に講師をお願いしてドイツ語教室を開いてもらいました。そこで自己紹介やあいさつなど、実際に現地で役に立つフレーズを教わりました。

ドイツ語は英語に似ていますが、特有の発音があつてとても難しかったです。しかし教え合いながら楽しんで学ぶことが出来ました。また、ドイツ語に限らず多言語を学ぶことがグローバル化していく社会において自分のためにも人のためにもなる、とても意味のあることのように感じ、充実した時間を送ることが出来ました。

練習をたくさんしたので、現地での自己紹介は自信を持って行うことが出来ました。うんうんとうなずきながら聞いてくれるドイツの人々のあたたかみを感じ、もっと私を知って欲しいと思ったので、より丁寧に発音しました。また、お店に入ったときや家族への挨拶、感謝をする時も、最初は少し照れくさくて英語を使っていたものの、習ってきたことを思い出して“Guten Morgen!” “Gute Nacht” “Danke!” “Bitte!”に変えました。すると、ドイツの人々の顔がパツと明るくなって、嬉しそうにドイツ語で返したり、日本語で「アリガトウ」と言ってくれたりしました。

それを聞いて私はとても胸があたたかくなったし、自分の国の言葉や文化が他国の人に知ってもらえることは幸せなんだと感じ、私のごちないドイツ語を聞いたドイツの人と同じ気持ちだと嬉しいなと思いました。

6th day ~市長訪問+全員で市内見学 & Bad Humberg 遠足~

環境に慣れ、どんどん楽しくなってきた中、日本との違いを発見。“予定は未定”。事前に決まっていたことが次々とずれていき、時間変更もお構いなし。日本では時間通りでないことがほとんどないので、驚きを隠せなかった。それと同時にこれでいいのかという不安もあった。しかし、時間がたつにつれ慣れていくと、「そんなに時間に迫られる必要はない」と思えてきた。不安や驚きが納得に変わることが異文化を受け入れることなのかもしれない。そんな一日でも夕方からボーリング。その日は帰ってすぐ爆睡。(初日は緊張で寝れなかったのに！)



表敬訪問

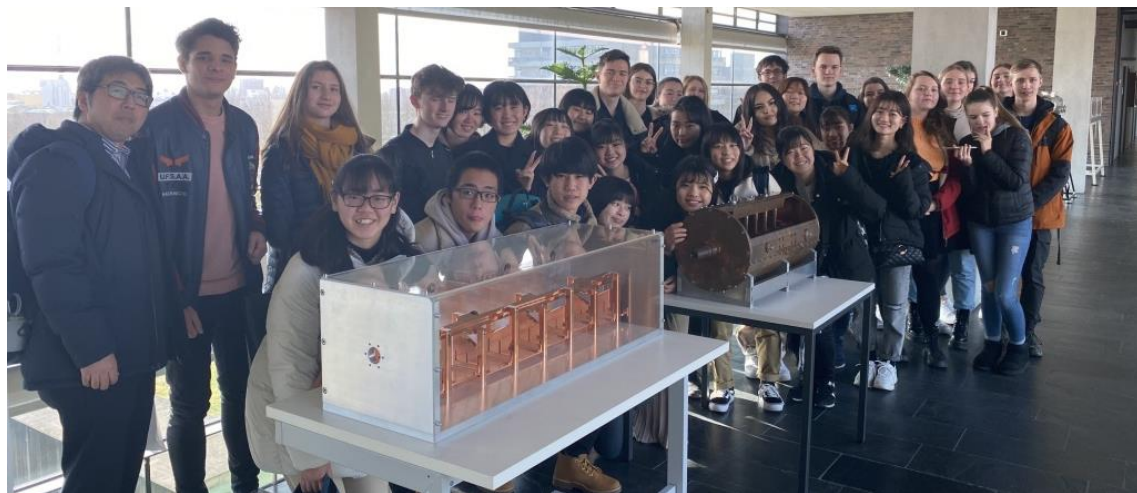
交流初年度に続き、今回もフランクフルト市長にレーマー広場にある市庁舎の中のカイザーの間に招待いただきました。「カイザーの間(カイザーザール)」はローマ皇帝選出後の祝賀会に使われていたという広間で、歴代の皇帝の肖像が壁一面にある、とても歴史的な場所です。そこで、市長のお話を聞き、各校で代表生徒が挨拶をし、全員でソーラン節を披露しました。この市庁舎で市長にお会いし、お話を聞いたことでフランクフルトと横浜の姉妹都市交流は大切にされていて、その代表として自分たちがこの場にいるのだと感じました。これからもこの姉妹都市交流に興味を持ってくれる人が増え、様々な交流が行われていくと嬉しいです。



7th day ～ゲーデ大学訪問+課外交流(レーザーダッグ)～

大学訪問時、教授の講話後、リード校の生徒は次々と質問。そのような場面では消極的で普段から質問をあまりしない私達。リード校の生徒たちの探求心の強さ、積極性に衝撃を受けた。レーザーダッグではリード校の生徒の皆が予約・計画してくれた。汗をかくほど大はしゃぎ！レーザーダッグも含めて、スケートやボーリングなど、ホストファミリーだけでなく、色んな生徒と交流できる場を作ってくれたり、男女や言葉関係なく楽しめるものを計画してくれたりした。留学生だから、日本人だからと特別扱いされるのではなく、同じ高校生として一緒に楽しめたことで、壁を感じることなく交流することができた。日本に来た時もそんな企画がしたいと思った。

自分達との違いに驚き、楽しすぎてもうすぐ別れるのがつらい寂しさを感じた7日目。



事前学習



Last day ~涙、涙のお別れの日~

最終日はそれぞれのホストファミリーと休日を過ごした。緊張や不安もすっかりほぐれ、最後のフランクフルト生活を満喫。フェスティバルに行ったり、博物館へ行ったりした。迎えた空港でのお別れ。8日間の楽しかったことや辛かったこと、準備してきた期間のことなど全てよみがえってきて大号泣。関わった人達皆と挨拶して、写真撮ってハグした。なかなか別れられずに何度も何度も抱き合った。頑張ってた準備してよかった！これでよかった！心からそう思った。そして誰もが帰りたくないと思っていた！！

